拝啓

貴社益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素よりミュンヘン日本人会の活動にご協力頂きまして誠に有難うございます。

さて、来る 2018 年 10 月 9 日（火）、PwC GmbH のご協力のもと「なぜドイツと中国はイスラエルに殺到するのか」についての講演会を開催させて頂きます。
皆様、ご多用のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。
参加をご希望されるお客さまにおかれましては、別添申込書もしくはメールに出席者の御芳名・御社名をご記入の上、10 月 1 日（月）13 時までに日本人会事務局（kaiho_jcm@mnet-online.de）宛にご連絡頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

（本セミナーは法人向けの内容になりますが、個人会員様の申し込みも可能です。但し、参加は法人様が優先となりますが故、座席数の限りによりご期待に添えない場合もございます。）

敬具

【開催概要】

日時　：2018 年 10 月 9 日（火） 15 時 00 分（14 時 30 分開場）～ 17 時 00 分（予定）

セミナー後、レセプションをご用意しております。

会場　：PwC GmbH / ミュンヘン事務所　Bernhard-Wicki-Straße 8, 80636 München

講師　：在独ジャーナリスト　熊谷　徹　氏

参加費 ：法人会員/個人会員無料、非会員 EUR30/人

内容　：イスラエルは中東のシリコンバレーとして知られており、世界中のベンチャー投資家が殺到している国です。特にサイバーセキュリティや自動運転、人工知能では世界でもトップクラスの技術を持っています。ドイツ、米国、中国の企業は２１世紀に入ってから、イスラエルの新興企業への投資、買収を積極的に行ってきました。しかし日本政府・企業がイスラエルに関心を持ち始めたのはごく最近のことです。なぜ小国イスラエルはハイテク立国になることができたのでしょうか。なぜドイツや中国はイスラエルに積極的に投資し、日本は水を開けられたのでしょうか。ドイツからイスラエルを８回訪れた経験も交えながら、在独ジャーナリストの熊谷徹氏よりご講演いただきます。

申込先 ：**日本人会事務局宛メール(kaiho_jcm@mnet-online.de)に以下の２点を記入ください**

氏名、会社名、（もしあれば）質問

締め切り：10 月 1 日 (火) 13 時

お申し込み後に受付完了メールが届きますのでご確認下さい。(時々メールが届かない時があるようですので、ご注意ください)

（ミュンヘン日本人会 セミナー（10月9日） / 参加申込書）

申し込み先　ミュンヘン日本人会**事務局**（**kaiho_jcm@mnet-online.de**）

誠に勝手ながら **10**月 1日（火）13時までにご連絡を頂戴致したく、宜しくお願いします。

ミュンヘン日本人会セミナーの日時・会場

◇開催日時 2017 年 10 月 9 日（火）15時00分-17時00分（14 時30分開場）

◇会 場 **PwC GmbH　セミナールーム**

（住所：**Bernhard-Wicki-Straße 8, 80636 München**）　地図　別添

出席者御芳名	
御社名	

アンケート欄:

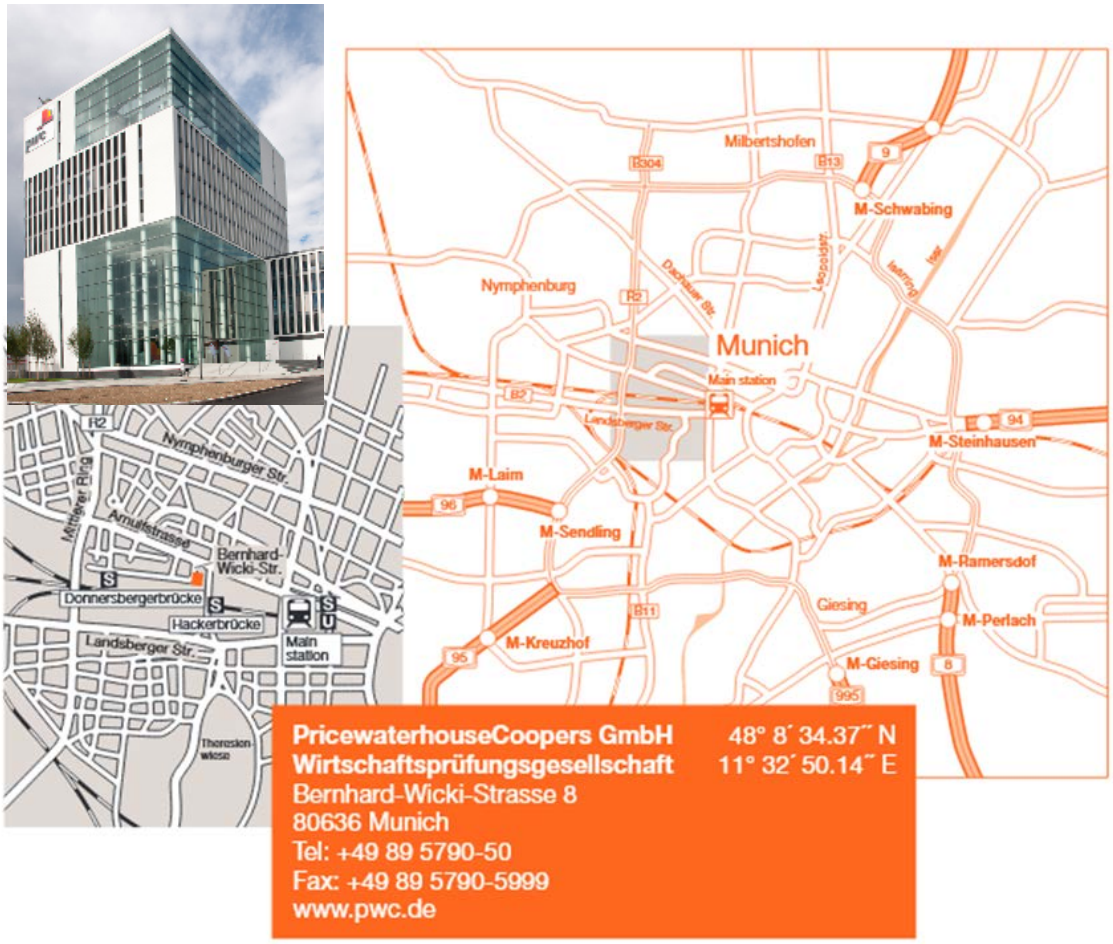
（熊谷先生にご質問されたい事等ありましたら、事前にお知らせください）

【ご参考】

1） 講師略歴

熊谷 徹（くまがい とおる）

1959 年、東京生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、ＮＨＫに入局。ワシントン支局勤務中にベルリンの壁崩壊、米ソ首脳会談などを取材。90 年からはフリージャーナリストとしてドイツ・ミュンヘン市に在住。過去との対決、統一後のドイツの変化、欧州の政治・経済統合、安全保障問題、エネルギー・環境問題を中心に取材、執筆を続けている。著書に『偽りの帝国 フォルクスワーゲン排ガス不正の闇』（文藝春秋）、『あっぱれ技術大国ドイツ』『ドイツ病に学べ』『住まなきゃわからないドイツ』『びっくり先進国ドイツ』『顔のない男 東ドイツ最強スパイの栄光と挫折』（新潮社）、『なぜメルケルは「転向」したのか ドイツ原子力 40 年戦争の真実』『ドイツ中興の祖ゲアハルト・シュレーダー』（日経ＢＰ社）『脱原発を決めたドイツの挑戦』（角川ＳＳＣ新書）など多数。『ドイツは過去とどう向き合ってきたか』（高文研）で 2007 年度平和・共同ジャーナリズム奨励賞受賞。

（2017 年 5 月 11 日発行の著書『日本の製造業はＩｏＴ先進国ドイツに学べ』（洋泉社）より抜粋）

2） PwC GmbH 地図)